

## 目次

平成 19 年度年次総会報告	（事務局）	1
第 2 回「川の自然と文化」講演会報告	（事務局）	5
せせらぎ	（事務局）	5
今後の予定		
年報（年次報告）原稿の募集、会費納入のお願い		
編集後記		

## 平成 19 年度年次総会報告

## 事務局

平成 16 年 6 月 22 日、松本市市民活動サポートセンターにおいて、平成 19 年度年次総会が開催されました。その概要をご報告します。

## 1. 平成 18 事業報告及び会計報告

## (1) 事業の成果

## I 運営の総括

創立 2 年目にあたる平成 18 年度の活動として、6 月の第 1 回川の自然と文化講演会のほか、「北陸地域の活性化に関する研究助成事業」（社団法人北陸建設弘済会）の「湧水と湧水起源の用水の分布、生息・生育している動植物及び景観特性、人々の生活とのつながり等の調査」を行った。しかし、これ以外の活動テーマの展開に関しては、その具体化を図るまでに至らなかった点は反省材料である。

## 【活動の基本的スタンス】

- ①川を中心とした水に関する自然、社会、歴史・民俗を調査・研究すること
- ②これらの情報を蓄積し、地域にわかりやすく伝えること
- ③豊かで潤いのある風土・河川・流域環境の保全と創出を目指し、地域と一緒に活動すること

## II 組織運営

平成 18 年度の事業活動は、理事会による当法人の今後の展開に向けた内規整備等の検討作業、北陸建設弘済会助成事業が中心であった。

当法人は、まだ創成期の段階であり、活動の具体化と担い手の確保、職務執行における収入の確保、活動の対外的な情報発信・アプローチなど、さまざまな課題を抱えている。

## a) 会員管理

○会員数 24 名

○会員データ管理：会員登録情報の整備、MLへの登録。

## b) 理事会の開催

	開催日	参加者	内容
第 3 回 理事会	9 月 16 日	7 名	最近の活動報告（まつもと市民環境大学設立準備会への参加） 北陸建設弘済会助成事業の経過報告 内規（案）について（旅費、委託業務への対応、講師派遣） 助成金事業について
第 4 回 理事会	1 月 20 日	5 名	最近の活動報告（安曇野ルネッサンス） 北陸建設弘済会助成事業の経過報告 総会及び講演会の時期・内容について
第 5 回 理事会	5 月 26 日	5 名	総会資料（案）の検討 講演会の内容とスケジュールについて

## c) 事務局会議の開催 2 回

## (2) 事業内容

本年度活動は、以下に示すとおりである。

活動テーマとその展開に関して、方向性を整理・提供し、具体化を図ることが十分できなかった点は反省材料である。次年度は、さらに内外に対して積極的な対応を図っていきたい。

(参考) 事業計画のテーマ及び内容

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1.河川域の生物多様性及び自然環境保全・再生のための企画、計画、実施及び評価 (環境保全を図る活動)	・助成事業の現地調査の実施と結果の整理、とりまとめ	6/6	松本市街地	延べ30名	多数	265
2.地域伝統文化、歴史記録保存のための調査、整理 (環境保全を図る活動)		9/17 12/5				
3.河川域の自然・社会・文化に係わる情報の収集整理 (社会教育の推進を図る活動)	・助成事業の関連情報の収集整理 ・長野県内河川の流域別関連情報の収集整理	6/3 11/3	松本市街地	2名	多数	0
		随時	天竜川上流域	3名	多数	0
4.技術的指導、提言・助言、情報提供、普及啓蒙 (社会教育の推進を図る活動)	・川の自然と文化講演会の開催 ・植生学会ポスター発表	6/26	松本勤労者福祉センター	12名	約50名	116
		10/8	信州大学	10名	多数	13
5.環境保全に係わる団体等の活動支援、ネットワーク作り、交流促進 (関連団体との連絡、助言、援助の活動)	・ニュースレターの発行 ・地域、大学、行政及び技術者との情報交換	7/31 9/30 5/31	事務所	3名	多数	0
		9/28 11/25 2/4	安曇野市ほか	3名	多数	0

(注) 助成事業：「北陸地域の活性化に関する研究助成事業」(社団法人北陸建設弘済会)

■助成金事業

- ・現地調査(6月3日、9月17日)、資料収集、写真撮影
- ・第1回川の自然と文化講演会(6月24日：松本市勤労者福祉センター、約50名参加)

講演1 「水は命ー酒造りにおける水の役割ー」  
(竹本祐子 亀田屋酒造代表役員)

講演2 「湧水がはぐくむ風景と生き物」  
(吉田利男 当会理事長・信州大学名誉教授)

- ・第11回植生学会松本大会ポスター発表(10月8日：信州大学)
- ・中間報告会(12月15日：新潟メルパルク)
- ・報告書作成

■ニュースレター

第2号(7月31日)

- ・豊科東小学校に隣接するビオトープ(山田徳生)
- ・河川計画の課題と展望(小林清秀)

第3号(9月30日)

- ・平成18年7月豪雨災害について(松本章夫)
- ・松本市内の湧水・水路調査(百瀬 剛)

第4号(5月31日)

- ・扇状地の悲劇(18/7梅雨前線豪雨災害から)(長沼和宏)
- ・長野県内の魚類分布について思うこと(山本雅道)

■安曇野ルネッサンス

- ・安曇野市NPO交流会への参加(9月28日)
- ・安曇野市民文化祭(2月4日) 会の紹介ポスター・ファイル展示

■まつもと市民環境大学

- ・設立準備会への参加(8月23日)

■助成申請

- ・E S D(国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業)(環境省・ユネスコ)
- ・第11回北陸建設弘済会助成(北陸建設弘済会)
- ・安曇野の堰の自然と利用の歴史(河川環境管理財団)
- ・ダム湖におけるリモートセンシング技術を用いた淡水赤潮発生状況の解析(ダム水源地環境整備センター)  
(これらは、いずれも不採用となった)

■その他

- ・NPOの明日を考える集い(6月4日：松本合同庁舎)
- ・ワークショップにおけるコミュニケーション手法(9月28日：松本市民活動サポートセンター)
- ・NPOによるCSR(企業の社会的責任)活動参画(11月25日：地球環境基金主催 M ウィング)

平成 18 年度会計貸借対照表 (平成 19 年 5 月 31 日現在)

科 目	金 額 (単位:円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	35,369	
普通預金 八十二銀行西松本支店	65,169	
郵便振替口座 倭郵便局	6,000	
未収金	12,000	
流動資産 合計		118,538
2 固定資産		
什器・備品	0	
固定資産 合計		0
資産の部 合計		118,538
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 (源泉徴収)	8,325	
流動負債 合計		8,325
2 固定負債		
固定負債 合計	0	0
負債合計		8,325
III 正味財産の部		
前期繰り越し正味財産		447,374
当期正味財産減少額		▲361,161
正味財産 合計		110,213
負債及び正味財産合計		118,538

平成 18 年度会計収支計算書 (平成 18 年 6 月 1 日から平成 19 年 5 月 31 日まで)

科 目	金 額 (単位:円)	
I 経常収入の部		
1 会費収入		
・正会員会費 (12名分うち1名は2年分)	39,000	
・学生会員会費 (8名分)	8,000	
・賛助会員会費	0	47,000
2 事業収入	0	0
3 寄付金収入	0	0
4 助成金収入	0	0
経常収入合計		47,000
II 経常支出の部		
1 事業費		
・環境保全を図る活動	264,740	
・社会教育の推進を図る活動	129,010	
・国際協力の活動	0	
・関連団体の運営・活動に関する連絡、助言、援助	0	393,750
2 管理費 (賃貸料、会議費、通信費、新聞図書費等)		
・通信費 (送料)	140	
・新聞図書費	2,440	
・予備費		2,580
経常支出合計		396,330
経常収支差額		▲349,330
III その他資金収入の部		
・預り金 (源泉徴収)	8,325	
・受取利息	212	
その他資金収入合計		8,537
IV その他資金支出の部		
1 固定資産取得支出	0	
2 法人税等		
・源泉所得税 (受取利息分)	43	43
その他資金支出合計		8,494
その他資金収支差額	0	0
当期収支差額		▲340,836
前期繰越収支差額	447,374	447,374
次期繰越収支差額		106,538

計算書類に対する注記

- 重要な会計方針  
資金の範囲は現金預金としています。
- 固定資産はありません。
- 保証債務、担保提供資産はありません。

## 2. 平成 19 年度事業計画

### (1) 会の活動のより活発化に向けて

○**会員の増員**（正会員 30、学生会員 20、賛助会員 5）  
会員を増やし、活動の活発化を図る。このため、情報発信を促進する。

○**フィールドプログラム**（観察会、巡検、視察、研究）の作成と実施

会員相互の交流を図るとともに、事業テーマの具体化を図る。

#### （事業テーマ（案））

- ・川の回廊としての役割を調べる（生物、文化、物資の往来）
- ・源流部・上流域の地質と流量及び河川構造物分布との関係
- ・松本平の扇状地を中心とした堰の自然環境と景観の歴史的変遷
- ・松本盆地流入河川の河床上昇と河川改修等との関わり
- ・エノキの分布調査からの地域自然環境保全へ向けた取り組み
- ・水田雑草を対象に、地域の人に自然の価値を理解してもらう活動
- ・生物の生息・生育状況による河川管理基準の設定に向けた調査研究
- ・学校単位で行える水質・生物調査のサポート
- ・プール掃除の際の水生昆虫救出作戦によるプールの回廊としての役割、周辺地域との比較（子供・PTA 参加）
- ・梓川上流域の戦前と現在との水生生物群集の空間的・時間的変遷（既往文献と現地調査）
- ・明科白鳥飛来地対岸での水辺観察会
- ・豊科東小学校に隣接するビオトープなど、学校に隣接する水路等の保全と整備
- ・松本市街地における湧水起源用水路マップ作成と水路保全・再生への活動展開（市街地の自然・景観資源としての再認識化と保全・再生への展開）

○**ニュースレター**（年 6 回発行）

会員からの投稿を中心に、観察会・セミナー等の参加報告、イベント案内・助成金情報、最近の川の自然と文化に関する話題の提供、会員の活動報告（論文、講演等）

○**ホームページの随時更新**

掲載内容の更なる充実化を目指した取り組み

- ・活動実績の紹介（視察・観察会・講演会等のイベント案内、ニュースレター、会員の発表論文・講

演の記録・紹介）

- ・情報提供（話題、フォトギャラリーなど）
- ・相談窓口として（講師派遣、調査研究協力・受託など）

○**他の NPO、研究会との交流**

千曲川流域学会、まつもと市民環境大学ほか

○**「川の自然と文化講演会」第 3 回開催準備**

（テーマ募集）

- ・安曇野の水環境の保全と創出に関する取り組みの現状と課題（行政－企業－市民）
- ・松本平における水利用の変遷（堰のはなし）
- ・安曇野地域での多自然川づくりに向けた取り組み

○**助成事業への応募**（研究助成テーマの募集）

○**年報の作成**

・助成事業成果報告、講演会記録、会員からの投稿、その他

○帳簿管理・支払申告等の経理事務、法令遵守のためのアドバイザー

### (2) 研究助成事業への応募

当会の活動趣旨に沿う助成事業に対し、積極的に応募する。

### (3) 講師派遣依頼への対応

内規による運用を図る（ホームページによる案内）

### (4) 委託業務への対応

内規による運用を図る（ホームページによる案内）

### (5) 所属団体名としての名称使用について

（想定される場面）

- ・助成事業、委託事業その他において、参加メンバーの所属する会社名等を使用することが適切でないと判断される場合（非営利的性格を有する調査・研究組織のメンバーとしての位置づけを明確にするために、大学・研究機関・NPO 法人のメンバーであることを求められる場合など）
- ・会の活動以外の場面で、会員が所属先として会の名称を使用して活動する場合（例えば、無所属の在野研究者が会を所属先とし、（囑託）研究員の名を用いて事業に関わる場合、助成を受ける場合）

（対応（案））

- ・理事長の承認及び理事会への報告
- ・会の活動の一環として扱う（入出金窓口、連絡報告、成果提出など）。
- ・その他、個別案件の趣旨・内容により、理事会での協議に基づき取り扱いを決定する。

## 第2回「川の自然と文化講演会」報告

### 事務局

6月30日に、笹本正治氏（信州大学人文学部教授・当会副理事長）による第2回「川の自然と文化講演会」を松本市中央公民館（Mウィング）において開催いたしました。

先生の研究は、武田信玄を中心とする戦国時代史、中世から近世にかけての音に対するイメージの変化、災害文化史、商人・職人史、山村史など多岐にわたっています。

目下、池などの水の色が赤く変色することに、中世から近世の人々がどのような感情を抱いたかを研究されています。これを通して、人々が水に抱いた感覚や水や大気をどのように理解していたかなどを明らかにしようとされています。

当日の講演は、「日本人の川と水への意識」と題して、歴史学の立場から、過去の人々にとって川はどのようなイメージの場所であったか、長い人間の歴史の中には水や川との戦いがあり、この戦いを通して人々が水を治めるとき過去の日本人はどのような気持ちを抱いていたのか、精神的な世界で人々は川とどのようにつき合ってきたのか、川の文化的側面をお話ししていただきました。

### せせらぎ（事務局だより）

#### ◎今後の予定

会員同士の交流を図るために、10月上旬を目標に、フィールドプログラムの実施を検討中です。詳細は追って連絡いたします。

#### ◎年報（年次報告）の原稿を募集します

研究報告、随筆、感想文、紀行文など、水に係わる内容であればジャンルは問いませんので、是非とも投稿をお願いいたします。投稿先は、[m-info@smcf.org](mailto:m-info@smcf.org)または郵送でも構いません。よろしくお願いたします。

#### ◎意見・要望等をお気軽にご連絡ください

身近な場所だけでなく、新聞等でトピック的なテーマについて観察会・視察の実施、更なる情報の入手等の要望がございましたら、お知らせください。

#### ◎会費納入のお願い

平成19年度会費の納入をお願いいたします。正会員3,000円、学生会員1,000円です。

郵便振替口座 00530-8-58581

銀行口座 八十二銀行西松本支店 普通 376187

口座名称 特定非営利活動法人川の自然と文化研究所



こうした問題を通じて、改めて日本人が川に対して抱いてきた心性を確認し、各人が今後川や水とどのようにつきあっていけばよいのかについて考える契機を与えていただきました。

- ・神聖な水（生命の源、宗教儀礼と水）
- ・天竜川と諏訪大社（天流宮・天滴社）
- ・川の民俗（川の神、あの世との接点としての川）
- ・水を治める（中国の皇帝像、日本人の治水意識）
- ・まとめと提言

なお、本講演記録をもとにした研究報告書を作成すべく、作業を進めています。

#### ◎編集後記

会報第5号をお送りします。前4号より大幅に遅れてしまい、申し訳ございませんでした。

当法人も、平成18年2月に設立登記をしてから1年半を経過しました。

この間の活動を振り返りますと、もう少し事務局の積極的な動き（会員交流、情報発信等）が必要であったように感じています。会員が増え、会員同士の交流が深まることで、会としての活動が継続的に活発に行われるようにしていきたいと考えています。

今後とも、皆さんからの叱咤激励、投稿等をお願いいたします。

NEWS LETTER 「川の自然と文化」 No.5

2007年9月10日

特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所事務局 発行

〒390-8205 長野県安曇野市豊科2209番地11

TEL/FAX (0263)72-3768

HP <http://www.smcf.org> e-mail: [m-info@smcf.org](mailto:m-info@smcf.org)